

◆ 国内初の『日本人技術者のみ』で建設されたアーチ式ダム

◎ 昭和20年代に4年連続で発生した台風や大雨による

大きな水害を背景に、建設された『鳴子ダム』の見学を行いました。

▷ 鳴子ダムの能力・諸元

- 形式：アーチ式コンクリートダム
→ 曲線（アーチ）形の構造で水圧を受け、土台となる岩盤で支えるダム
完成：昭和32年（工事着工：昭和27年）
機能：洪水調整・灌漑・発電
堤高：94.5m・堤頂長：215m・流域面積：210.1km²
有効貯水容量：3,500万m³（お風呂17,500杯分）



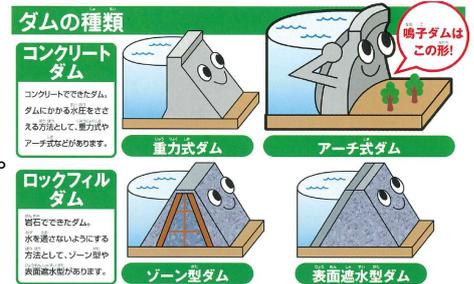
▷ 国内初の日本人技術者のみで建設されたダム

当時日本でダムを建設する時は、海外の技術者を招き指導いただきながら建設していましたが、鳴子ダム建設時は日本人技術者のみで建設されました。

その功績が評価され、平成28年には東北のダムとして初の『選奨土木遺産』に認定されました。

▷ 鳴子ダムがアーチ式になった理由

- ① 当時のコンクリートダムは、重力式が一般的でしたが、第二次世界大戦後のセメント調達困難時期であったため、コンクリート使用量が少なく済むアーチ式が採用されました。（コンクリート量：36万m³ ⇒ 18万m³）
- ② 鳴子ダムサイドの地形は岩盤が固く、アーチ式での建設が可能でした。



◆ 見学した若手職員の声



ダム施設の概要説明の様子

鳴子ダムは、洪水調整を行い水害を防ぐ治水と、農業用水や発電を行う利水の機能など、いくつかの目的を持つ「多目的ダム」であり、ダム施設のライトアップを行い地域の観光資源として用いられていることを学びました。

鳴子ダムの建設理由や役割を学び、私たちの仕事が地域住民の方々の要望に応える仕事でもあり、災害時には人の命にも関わることもあるため、日々の仕事にも気を引き締めて臨まなければならないと改めて実感しました。



ダム施設での見学の様子

～担当者のひとこと～

道路事業に携わる機会が多いため河川関係の構造物を見学できとても貴重な体験でした。ダムが役割を持って作られているように、道路の基本的な役割である、人・地域をつなぐネットワーク機能や地域・まちを創る空間機能という目的があることを意識しながら今後の業務に励んでいきます。